

参加者：井関、関本、安倍、金、今川
セントレア

- 到着ゲートは暗く、華がない。外国人観光客は日本観光への期待を膨らませて到着ゲートに来るのだから、そこからわくわく感を演出しなければいけないのに、ゲートから名鉄のホームまで寒々とした印象。出発ゲートは明るくショップなどがたくさんあるので、すべては日本人が海外旅行を楽しむために作られた感じ。インターナショナルとは言えない。
- ゲート正面の案内表示は暗く小さくそっけない。到着した旅行者のニーズに沿った案内・表示が必要ではないか。
- 宅急便受付が遠く、分かりにくい。バゲッジ配達を依頼されるのは100件/日位で、その内10件が外国人旅行者。反対側に外国人向けのパンフレット置き場があり、そこでも宅急便を受け付けている。宅急便の表示を見てそこで依頼する外国人も10人/日。ゲート正面に、「お手持ちのバゲッジをホテルまでお届けします！」と案内されているべき。
- コインロッカーと更衣室がきちんと整備されているのに案内がなく分かりにくい。これも「着替えたい方、バゲッジの中身を入れ替えたい方はこちらへ！」とあれば、気が利くねと感じてもらえるのでは。
- 外国人観光客にとって名鉄電車のシステムは最悪。同じプラットホームで行き先も料金も違う列車が入ってくるのに初めて利用する人の為に分かり易くする工夫が全くない。路線図と料金表が大一枚、小3枚が同じ場所に表示されているが、そのうち3枚が全く同じ日本語表記で、小さな英語表記が片隅に表記されている。少なくとも小さい看板は中国語、韓国語、英語で表記すべき。
- 名鉄電車の複雑怪奇な路線運航システムは日本人でも分かりにくい。外国人向けに買い方、乗り方の案内チラシが必要。路線図の色に合わせて電車の先頭に表示し、ミュート急、の違いもプラットホームに入ってきた電車を一目で確認できるシステムが必要。特急の一部指定、全席指定を分けているが最低に分かりにくい。
まず、行き先と料金を確認しなさい。行き先が青い路線だったら列車先頭に青色表示があるので、それに乗ること。赤い色の表示がある列車はあらかじめ窓口で指定席を360円で買う必要がある。

常滑

- 焼き物の里にはコンテンツはしっかりとあって、日本情緒も感じることができる。INAXライブミュージアムもしっかり観光できる施設になっているが、名鉄から徒歩移動する場合その途中が味気なく期待外れ感が大きい。中途半端に遠いので、駅・ミュージアム・焼き物の里間のレンタサイクルサービスがあってもよい。
- 多少英語表記がしてあったが、建物の看板や案内看板は日本語表記しかない場所が多く、統一されていない。行政がきちんと表示について指導して、全体に統一感のある表示プログラムを作るべき。（歴史的な建物は、赤地に白文字で英語、中国語、韓国語で表記する。食事処は緑地、土産物は青地 等）そこにデザイナーの入る余地があるかも。
- 朝の便で空港に到着して、その日はホテルにチェックインするだけという人向けに、2時間で常滑のミニツアーサービスが面白いかも。到着ゲート正面に「常滑の伝統焼き物がみられるミニツアーはいかが？」と案内し、そこで受け付ける。ミニバス等で常滑を回って空港まで戻ってくる。この様な周辺ミニトリップサービスは空港では、やっていない。